

小規模多機能型居宅介護「サービス評価」 総括表

法人名	社会福祉法人 長岡福祉協会 高年齢ケアセンター こぶし園	代表者	船越芳之
事業所名	小規模多機能型居宅 介護千秋	管理者	阿部恵理子
法人・事業所の 特徴			
ご利用者の生活・介護(くらし)を支えることを念頭に置き、日常生活の支援を行っています。中重度の方でも安心してご自宅での生活が継続できるように訪問を中心とし通い・宿泊の利用調整を行い援助しております。ご利用者が今まで暮らしてきた生活のスタイルを崩さず必要介護状態となってもご自宅で暮らせるように、ご利用者一人一人に寄り添った柔軟な支援をしています。 また複合型施設の特徴を生かし、他事業所のご利用者とも交流し活動を行っています。			

出席者	市町村職員	知見を有するもの	地域住民・地域団体	利用者	利用者家族	地域包括支援センター	近隣事業所	事業所職員	その他	合計
	1人	3人	3人	0人	1人	1人	1人	7人	0人	17人

項目	前回の改善計画	前回の改善計画に対する取り組み・結果	意見	今回の改善計画
A. 事業所自己評価の確認	・「暮らしの情報シート」(アセスメントシート)を活用し、情報を利用者、家族と共有する。	・暮らしの情報シートでアセスメントした内容をタブレット内に入力し職員間で共有した。意思表示できずご利用者は終末期の意向について確認できなかったがご家族と共有するところまでは至らなかった。 ・家族と本人との意向が違うケースへの対応について苦慮した。例えば本人が通いに行きたくない、施設に入りたくない、という意向だとしても、家族は本人とは反する意向であることが珍しくなかった。介護保険は利用者本人の保険だが家族の意向が強くなる場面も多々ある。職員も家族の気持ちが高藤しながら対応してはいた。	・本人、家族の意向が違う場合があるため、コミュニケーションを繰り返す必要がある。また、本人の意向に添った生活を送るためには家族からの協力、理解が必要のため、家族支援の視点も重要。 ・病気によっても意思を尊重できなかった場合は家族、主治医と情報共有し方向性を確認する。 ・本人に楽しみや役割を持ってもらえるような関わりをしていく。長期的に目標が達成できるように関わっていく必要がある。 ・警察の立場では高齢者の交通事故や家に帰れないといった事が増えているため、包括介入で入所などサービスを活用して欲しい。	・「暮らしの情報シート」(アセスメントシート)の活用を継続する。日々の関わりからご利用者の思いや希望を聞き取った際はシートを更新し、ご家族と情報を共有し共に考えていく。 ・事業所ミーティングで改善計画の進捗状況を確認していく。
B. 事業所のしつらえ・環境	・事業所入口の壁や靴箱の上にしつらえを行う。 ・額縁内の絵葉書を季節に合わせて入れ替える。	・感染状況も落ち着き見学も可能となったためご家族や見学の方などに事業所内をみていただく機会が増えた。担当を中心に季節感を感じられるしつらえを行った。	・玄関ホールの飾りつけ等季節感を出したり工夫している。家族や地域の方が入りやすい雰囲気づくりもされている。 ・不審者等に備えた防犯上の工夫がされている所があれば聞きたい。	・季節を感じて頂ける行事や創作活動を行う。また、事業所入口の壁や靴箱の上に季節に合わせてしつらえを行う。額縁内の絵葉書を季節に合わせて入れ替える。 ・ご利用者が過ごしやすい(安全性・快適性・プライバシー)フロア・居室環境を整えていく。また、自宅での生活が維持できるような工夫。

<p>C. 事業所と地域のかかわり</p>	<p>・広報を継続して発行する。 ・センターを知ってもらったため施設見学を計画する。イベントに合わせて日程にしたり、対象者を絞って(老人会、マンション単位など)参加しやすくする。</p>	<p>・センター全体の地域啓発活動として年度初めより地域啓発委員会を中心となり企画立案した。施設見学について運営推進委員の方より質問あり。12月に地域の介護予防サークルの方を千秋にお招きする。センター内理学療法士による体操も併せて行う予定になっている。 ・広報は今年度も月1回発行することができた。</p>	<p>・広報誌を発行している事は知っているが、施設見学についての取り組みを教えて欲しい。関心が見られるような取り組みをすれば見学する方も増えると思う。</p>	<p>・広報を継続して発行する。 ・センター全体でも地域の方に来訪してもらえらる行事等を計画し交流できる場を設けていく。 ・職員が地域行事に参加し、センターを知ってもらえらるよう特徴や魅力を発信していく。 ⇒センター全体で考えていく。</p>
<p>D. 地域に向いて本人の暮らしを支える取組み</p>	<p>・地域のイベント情報を年間で把握し希望される方が参加できるようにする。</p>	<p>・希望が丘小学校と大島小学校の運動会を見学した。その他アクティブ活動での外出の際も地域イベントへの参加を検討したが、どうしてもご利用者の行きたいことややりたいこと、例えば地元の栃尾に行きたい等が優先となり、それ以上のはできなかった。</p>	<p>・地域行事への参加はご利用者にとっても楽しみの一つになっていると思う。 ・地域のイベント情報を利用して参加できるようにしていく。</p>	<p>・地域の行事やイベントの情報収集を行い、早めに計画を立案し参加できるようにする。</p>
<p>E. 運営推進会議を活かした取組み</p>	<p>・管理者以外の職員の運営推進会議参加を継続する。運営推進会議で出た意見や情報を事業所でミーティング等で共有し運営に活かす。</p>	<p>・今年度から小規模単独の運営推進会議ではなくサードセンター千秋合同の運営推進会議となった。会議自体の規模が大きくなり前年度同様の配置ができなかったことが多かったが他部署の動静や議事録を職員間で共有しよりセンターとしての動きが分かるようになった。</p>	<p>・運営推進会議から出た意見を反映して地域との繋がりを考える機会になった。</p>	<p>・介護職員の運営推進会議の参加を継続し、運営推進委員からの情報や意見を事業所で共有し運営に活かす。</p>
<p>F. 事業所の防災・災害対策</p>	<p>・引き続き実際に災害が発生した際迅速に動けるようどのような動きが必要になるか想定し訓練する。</p>	<p>・全員が参加できないため事前に避難訓練の流れを回覧で周知し当日の訓練に望んだ。緊急時冷静に対応できるよう定期的な振り返りが必要。</p>	<p>・避難訓練を見学して避難誘導の方法や避難経路の確認ができた。 ・より実践に近い避難訓練の方法を検討しても良いのではないかと。</p>	<p>・迅速かつ安全に動けるよう実践に近い避難訓練を計画する。また、運営推進委員の方々からも見学してもらい意見を頂く。</p>